論述審査(語学)

問題用紙

- 論述審査（語学）の解答は、事務局より送付された解答用紙を開き、各自の作業環境において、マイクロソフト Word で作成し、後述の【提出先】へアップロードしてください。
- Word ファイルの 1 行目の枠内に、氏名、受験番号（メールで通知）を記載してください。
- Word ファイル名は、受験番号としてください。
- 答案は、他の人に相談せず、独力で作成してください。

【提出期限】　××××××××××××××受信まで
（提出〆切の日時を過ぎて本学で受信が確認された場合は無効）

【提出先】　以下のフォームから、解答ファイルをアップロードしてください。

××××××××××××××

提出が正常に完了した場合は、Google formsより受領確認メール（件名「博士後期課程 入試 論述審査（語学） 2026 年度第 1 回入試」）が届きます。3 時間以内に届かない場合は、問合せ先メールへご連絡下さい。
Google フォームのファイルアップロード機能を使用しているため、
Google アカウントのログインを求められます。
アカウントをお持ちでない（作成方法がわからない）場合は×××××××××××××までに以下のメールへお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：×××××××××××××××　博士後期課程 入試委員会宛

次の 2 つの論文を読み、以下の問1～3 に答えなさい。すべて日本語で解答すること。
いずれもオンラインにて無料で全文入手可能な論文である。入手や出題に関する質問については受け付けない。

課題論文①
Maeda, N. (2022). What Does School Attendance Mean in Japanese Compulsory Education Schools? Analysing the National Annual Report. *Orbis Scholae*, 16(2–3), 61–73. （https://karolinum.cz/data/clanek/11161/OS_16_2_0061.pdf）
課題論文②
Strauss, C., Taylor, B. L., Gu, J., Kuyken, W., Baer, R., Jones, F., & Cavanagh, K. (2016). What is compassion and how can we measure it? A review of definitions and measures. *Clinical Psychology Review*, 47, 15–27. （https://doi.org/10.1016/j.cpr.2016.05.004）

問1　課題論文①について、以下の問いに答えなさい。

問1-1　本論文において、学業達成を保証するためのシステムとして示されている例を探し、2023 年度版マニュアル(PDF 版)の文献情報を、本論文の文献リストと同様の形式で記載せよ。

問 1-2　問 1-1 で参照したマニュアルの内容を参照し、2023–2024 年度における、8年生の評価対象科目をすべて挙げよ。解答は本文中の英語と日本語訳の両方を示すこと。片方のみの場合は採点対象としない。

問 1-3　義務教育段階における学校の出欠問題を論じるにあたり、著者は、子どもにとって問題がない状況をどのように想定していると考えられるか。本文の記述や提案を踏まえて、簡潔に述べよ（20 字～60 字程度）。

問 1-4　まず、課題論文における著者の主張と、日本の不登校対応の現状について説明しなさい。次に、あなた自身の意見を、著者の主張や日本の現状との関わりを明確にしたうえで述べなさい。

問2 課題論文②について、以下の問いに答えなさい。

問 2-1　本論文において著者らが言う compassion について、類似の概念との相違を説明した上で compassion とはどのような概念か説明せよ。

問2-2　本論文では、先行研究のシステマティックレビューにより compassion に関する9つの尺度が取り上げられてそれぞれ評価されたが、compassion の心理尺度の作成開発あたって確認しなければいけないことを本論文に即して説明せよ。

問 2-3　本論文で著者らは、いずれの尺度もこのレビュー研究での評価は高くはなく、十分満足な尺度はなかったと言っており、今後新たな compassion の尺度開発の必要性と compassion を高める介入策の提案や方向性を説いている。もしあなたが、この研究をベースにして compassion に関する新たな研究を行うとすれば、どのような研究を展開するか、その構想を説明せよ。
（本論文公刊後に行われている関連の研究を引用しながら説明することはかまわない）

論述審査(語学)

問題用紙

・　論述審査（語学）の解答は、事務局より送付された解答用紙を開き、各自の作業環境において、マイクロソフト Word で作成し、後述の【提出先】へアップロードしてください。
・　Word ファイルの 1 行目の枠内に、氏名、受験番号（メールで通知）を記載してください。
・　Word ファイル名は、受験番号としてください。
・　答案は、他の人に相談せず、独力で作成してください。

【提出期限】　××××××××××××受信まで
（提出〆切の日時を過ぎて本学で受信が確認された場合は無効）

【提出先】　以下のフォームから、解答ファイルをアップロードしてください。

××××××××××××××

提出が正常に完了した場合は、Google formsより受領確認メール（件名「博士後期課程 入試 論述審査（語学） 2026 年度第 2 回入試」）が届きます。3 時間以内に届かない場合は、問合せ先メールへご連絡下さい。
Google フォームのファイルアップロード機能を使用しているため、
Google アカウントのログインを求められます。
アカウントをお持ちでない（作成方法がわからない）場合は××××××××××××××までに以下のメールへお問い合わせ下さい。

問い合わせ先：××××××××××××××　博士後期課程 入試委員会宛

次の 2 つの論文を読み、以下の問1～2 に答えなさい。すべて日本語で解答すること。
いずれもオンラインにて無料で全文入手可能な論文である。入手や出題に関する質問については受け付けない。

課題論文①
Crompton, H., & Burke, D. (2023). Artificial intelligence in higher education: The state of the field. *International Journal of Educational Technology in Higher Education,* 20, Article 22. https://doi.org/10.1186/s41239-023-00392-8
課題論文②
Walton, E. (2025). Why inclusive education falters: A Bernsteinian analysis. *International Journal of Inclusive Education, 29*(4), 570–584. https://doi.org/10.1080/13603116.2023.2241045

問1　課題論文①について、以下の問いに答えなさい。

問 1-1　著者らが特定した、高等教育における AI の主な活用分野を 3 つ挙げ、それぞれの概要を説明しなさい。

問 1-2　論文の分析によると、AI 研究における地理的分布や研究者の所属部門にどのような傾向が見られるか、具体的に述べなさい。

問 1-3　この論文の知見を踏まえ、教育現場で AI を効果的に活用するために、教育者や研究者はどのような点に留意すべきか、あなたの考えを述べなさい。

問2　課題論文②について、以下の問いに答えなさい。

ただし、解答は以下の指示に従って作成すること。
・すべての解答は本論文にある情報に基づいて作成し、参照した情報の論文中の所在をページ数で明記する。［例：インクルーシブ教育とは～という理念である（p.573）］
・本課題論文に基づく設問には英語のキーワード（例：classification, insulation, power など）が含まれるが、問 2-2 以外の解答は原則すべて日本語で記述する。解答中に英語の語句を使用する場合は、必ずその語に対応する学術的に適切な訳語を併記する。訳語の提示がない場合、語義の理解が不十分と見なされることがある。問 2-2 はその指示に従う。

問 2-1　本論文では、インクルーシブ教育の実現困難性を分析するために Bernstein の classification の概念を採用している。その概念を整理し、著者がこの研究テーマの分析枠組みとして適しているとする理由を説明しなさい。

問 2-2　以下の文章は、本論文の著者が Bernstein の理論を用いて教育制度の権力構造とインクルーシブ教育への抵抗をどのように分析したかを説明している。文脈に合う語句を補いなさい。解答は本文中の英語と日本語訳の両方を示すこと。片方のみの場合は採点対象としない。

バーンスタインによれば、教育制度における分類は（ ① ）によって構築されるが、制度内部ではそれが（ ② ）として認識されるため、制度的な境界や排除の仕組みは批判されにくい。著者は、この構造によってインクルーシブ教育への抵抗が正当化されると分析する。
　たとえば、特別支援教室が（ ③ ）に隔離されていること、一般教員とさまざまな専門家の（ ④ ）が分断されていること、生徒が（ ⑤ ）によって固定化されること、医学的な診断によって生徒の（ ⑥ ）が単純化されるこ

と、そして「特別な子どもには特別な教育が必要」とされることで（ ⑦ ）が分離されることなどがその例である。
これらの分類は一見公正に見えるが、実際には特定の制度的主体に（ ⑧ ）をもたらしており、インクルーシブ教育が目指す「分類を（ ⑨ ）」試みに対して構造的な障壁となっている。

問 2-3　著者は、インクルーシブ教育の理念が制度的に実現されるためには何が必要であると述べているか。また、インクルーシブ教育の実践者が認識し、取り組むべき条件について、どのように説明しているか。簡潔にまとめなさい。

問 2-4　本論文は調査や実験を行った結果に基づく研究を扱ったものではない。著者はこのタイプの研究をどのように定義しているか。また、そのような研究方法の一般的な意義をどのように主張しているか。自身の目指す星槎大学大学院博士後期課程での学び・研究と関連づけながら、説明しなさい。